

環境先進国

ドイツから学ぶ

62

吉田 浩巳



ドイツでは家庭用の太陽光発電や風力発電の普及が進み、需要が増えたことにより設置単価も安くなり、おおむね10年程度で減価償却ができるようになっていきます。

私が話を聞いた何人かのドイツ人は異口同音に「太陽光発電や風力発電は、設置のために最初はまとまったお金が必要ですが、初期投資をしても約10年たてば電気を買い取っていたいた費用で借金が返せて、そこから毎年、年金のように収入になりますから、銀行にお金を預けるよりもいい

一方で、本当にドイツは環境先進国といえるのだろうかと感じたことも紹介したいと思います。ゴミ箱をのぞくと、ペットボトルと紙くずが一緒に入っていることが珍しくありません。

町にはタバコのポイ捨てだけでなく、ビンも道路の端に落ちていましたし、布団のような粗大ゴミが道端に放置されている状況も目の当たりにしました。これらの光景には驚くばかりです。

マインツ市環境情報センター職員は「タバコや道に落ちているゴミは個人の責

の採掘場がいくつもあり、約100年前にできた鉱山法のもと石炭の採掘などがどんどん進められています。

驚くべきことは、この鉱山法によって既存のコミュニティを取り壊してまで採掘が進められていることです。

また、ドイツで世界的に有名なアウトバーン(高速道路)も採掘により寸断されています。途切れたアウトバーンは、別のルートを建設してつながれています。このように町全体が採掘場にとんどのみ込まれ、見渡す限り採掘場で、視界にはコミュニティが消滅しており、まったく確認できない状況です。

エネルギー開発の現状と課題②

石炭採掘にのまれる町

ので、ドイツでは多くの個人が設置しています」と述べていたことが、とても印象に残っています。

任で、必要以上に行政が対応すべきことではありません。1日1回清掃車が掃除しているので、それ以上の

ことは行政は行いません」と述べています。

また、行政の役割は、国民に大きな方向性を示し、

それを実行するための法整備を市民の意見を聞いて進めることだと付け加えていました。

石炭の採掘がコミュニティや町よりも優先されることは本当に驚きです。環境NPOは何となくして石炭の採掘をやめさせようとしていますが、現在の法律の下では採掘業者を相手に訴訟を起こしても負けてしまうそうです。そこで、この鉱山法自体の法改正の訴訟を起こす予定をしています。

エネルギー問題を解決するためには、約100年前の法律を変える必要があると環境NPOは力強く語っています。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

第2、第4、第5水曜日掲載



見渡す限り広がる石炭の採掘場(フルトライン、ヴェーエストファーレン州)

ドイツには大規模な石炭